

ショートコメント vol.300 (2023年11月7日)

テーマ：国内客のホテル需要は減退局面へ
～市場のインバウンド依存度はコロナ前を上回る～

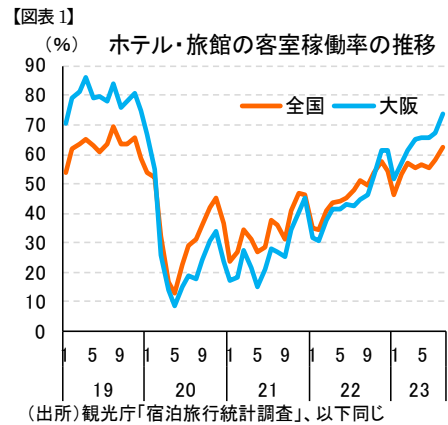
●ホテル・旅館の客室稼働率

ホテル・旅館の客室稼働率は好調な推移が続いている。

全国、大阪ともに順調な回復が進んでおり、コロナ前の水準は目前という状況にある(図表1)。大阪の客室稼働率は足元で74%まで回復が進んだ。

各地での回復の原動力は、インバウンドの増加が中心である。月を追うごとに訪日の動きが増えていることで、市場の回復を力強く牽引している。

ホテル・旅館の需要が増えることは、一部で人手不足の拡大につながることから、今やメリット一色という状況ではない。ただ、需要の増加が進んでいること自体は、明るい材料といえよう。

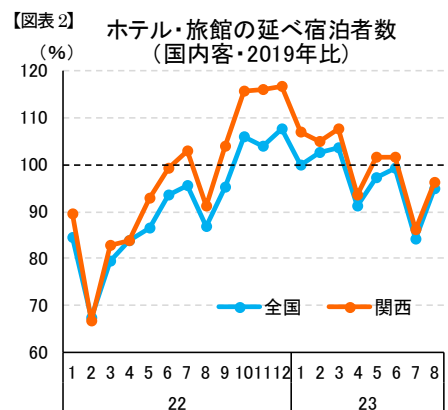


●インバウンド需要と国内需要の乖離

ただし、需要面にまったく不安がないわけではない。

ホテル・旅館の利用状況を、インバウンドと国内客に分けた場合、そのトレンドは全く異なるものとなっている。好調に推移するインバウンドに対し、国内客の需要は減退が進んでおり、コロナ前比でみると、直近の数か月はマイナスで推移している(図表2)。

国内需要の減退については、全国旅行支援の終了によるリベンジ需要の一巡や、ホテル料金の上昇による悪影響などが要因とみられる。さらにいえば、インフレの継続による所得の圧迫が、旅行需要全体の減少につながっている可能性が高い。

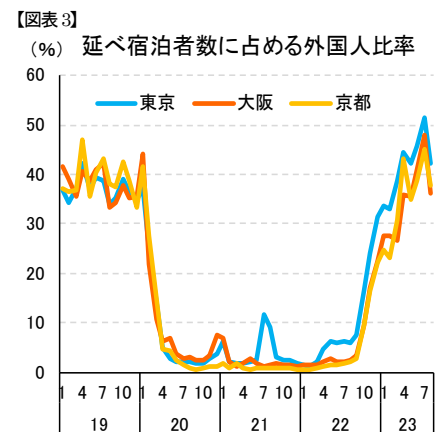


●市場のインバウンド依存度

インバウンドの増加と、国内需要の減退が同時進行していることで、市場ではインバウンド依存度が高まっている。宿泊客に占めるインバウンドの比率をみると、すでにコロナ前を上回っている地域は少なくない(図表3)。

結果として、ホテル需要は全体として堅調な推移を維持しているものの、市場を評価については慎重さが求められる。基本的には、国内需要の減退を加味した評価が必要となろう。

客観的にみれば、インバウンドの来訪総数がまだコロナ前に戻る前に、ホテルでの依存度はすでにコロナ前を上回っていること



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

になる。こうした状況は、決して喜ぶべきものではない。

一方、インフレについては長期化が懸念されるだけに、国内需要の減退も長期化の懸念がぬぐえない。

こうしたインバウンドと国内需要のトレンドの乖離については、必ずしもホテル業界だけに限らない。足元で好調とされる百貨店やコンビニ業界についても、インフレによる国内需要の減退の可能性は否定できない。今後は各業界の需要判断はもちろん、消費全体の判断についても十分な注意が必要といえよう。

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。